

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年9月30日現在

## 今月の重点活動

### ■えだまめ 夏期高温時の発芽対策現地研修会を開催

9月2日、JAぎふえだまめ部会は、島集荷場の隣接ほ場において、部会員を対象に、タイベック使用による夏期高温時の発芽対策について現地研修会を開催した。

農業普及課から、今年度実施した10か所の展示ほの発芽率や地温データなどの結果を報告し、高温時の発芽対策として、タイベックの使用が有効であることを説明した。また、は種後にタイベックを被覆したほ場の発芽状況を確認してもらい、設置方法や除去する時の注意点などを説明した。参加した生産者からは、「タイベックを被覆したマルチの上は、ひんやりしている」などの感想があった。

今後、農業普及課では、タイベックの次年度導入に向け、関係機関と連携して産地に働きかけるとともに、全生産者を対象とした栽培研修会で、再度使用方法などの説明を行い、技術の普及を図る予定である。（園芸産地支援第一係・川部 知）



【現地研修会の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー 定植作業行われる

JAぎふブロッコリー生産連絡協議会では、9月3日を皮切りに、管内各地で定植作業が行われてきたが、断続的な降雨や台風16号の影響から、作業遅れとなるほ場も散見されている。

その対策として、農業普及課ではJA担当者と連携して、急遽9月下旬に支部単位で研修会を開催し、定植作業の遅れ対策や初期生育を促すための管理ポイントについて指導した。

今後は10月上旬までに定植作業を完了し、11月上旬～3月中旬まで出荷が続く予定である。（地域支援第一係・稲葉 千佳）



【定植機による作業の様子】

### ■アスパラガス 先進地視察研修会を開催

9月21日、JAぎふ羽島市アスパラガス部会員9名が、長野県のJA上伊那地域のアスパラガス産地を視察した。

JA上伊那担当者から、産地概要、選荷場の運営方法について、普及センター担当者から、普及活動の取り組みについて説明を受けた後、アスパラガスほ場を視察し、生産者の方から栽培状況などの説明を受けた。参加した部会員からは、ハウスの仕様や病虫害防除の方法など質問が多く出され、有意義な視察研修会となった。

農業普及課では、今後も部会活動を支援し、アスパラガスの産地振興を図っていく予定である。（園芸産地支援第一係・松浦香絵）



【選荷場を視察する様子】

## 多様な担い手づくり

### ■集落営農 法人設立に向けて大詰め検討

農地中間管理事業モデル地域として、集落営農法人の設立を目指す山県市青波地区では、10月の法人設立に向け、設立研究会を精力的に実施している。9月は、5日、7日、14日、21日、28日とほぼ毎週関係者全員が参集しており、特に14日には、岐阜県農業会議のスペシャリスト派遣により司法書士を招き、定款作成や印鑑準備など大詰めの検討を行った。

農業普及課は、県農業経営課の協力を得ながら、事業計画策定の準備を支援している。（地域支援第三係 吉田一昭）



【設立研究会の様子】

## 売れるブランドづくり

### ■羽島市水稲種子採種組合 採種ほ出穂期審査・抜き穂作業を実施

9月2日に、羽島市水稲種子採種組合の採種ほ場において、出穂期審査を行い、異系稲株の有無、病害虫の発生、雑草など、管理状況について確認した。一部のほ場において、台風10号の影響による籾の汚れ等が見られたものの、全筆合格となった。

また、9月16日、20日には、異系稲株の抜き穂作業を3地区で実施した。これは、糊熟期審査の前に、遅く出穂した稲株や異系の稲株を組合員が除去するもので、今年はお穂の遅い稲株等はなかったが、細菌性の穂枯れ症状が確認された。

農業普及課では、今後糊熟期審査を実施するなかで、高品質な種子の生産に向けて引き続き支援していく予定である。  
(地域支援第二係・山田隆史)

### ■小麦 タマイズミ栽培研修会を開催

J Aぎふは、9月15日、J Aぎふアグリパークにおいて、岐阜地域管内の生産者を対象とした栽培研修会を開催した。これまで、岐阜市、羽島市、本巣地域の単位で研修会が実施されていたが、管内全体として、収量・品質の高位平準化を目指すことを目的に、初めての試みとして開催された。

農業普及課からは、平成28年産小麦の生育状況について報告し、平成29年産小麦の栽培管理について指導を行った。今後は、当面の管理である排水対策や適期は種指導等を行う予定である。

(地域支援第三係・岡田隆史)



【栽培研修会の様子】

### ■いちご 頂花房の花芽検鏡を実施

農業普及課では、9月2日～23日にかけて、いちご担当普及指導員が管内いちご苗の頂花房の花芽検鏡(約400株、延べ生産者数131名)を実施した。

いちごは、花芽分化後に定植(高設栽培で花芽分化前に定植している場合は、花芽分化を確認後に液肥施用を開始)することが、生産安定のために重要であり、実体顕微鏡により花芽分化状況を確認し、定植や液肥開始の時期について情報提供するため実施したものである。

今年は、8月～9月中旬の気温が高めで推移したことから、花芽分化期の平均日は、濃姫が9月15日、美濃娘と章姫が9月14日、とちおとめが9月16日で、平年並～やや遅めであった。

農業普及課では、今後もいちごの安定生産に向けた技術支援を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・小島康平、三和浩一、松浦香絵)



【花芽検鏡の様子】

### ■だいこん 祝だいこん栽培研修会を開催

岐阜市園芸振興会だいこん部会は、9月16日、J Aぎふ則武支店において、祝だいこんの栽培研修会を開催し、生産者やJ A担当者など約50名が参加した。

J A全農岐阜の担当者から、大阪市場からの要望量や競合産地の動向などの情勢報告があり、J Aぎふの担当者から、今年のは種開始予定日や現時点での出荷規格について情報提供があった。

農業普及課からは、昨年の栽培上の問題点、失敗事例や出荷歩留まりが高かった生産者の栽培履歴などを踏まえ、土壌消毒剤や除草剤など農薬の適正使用、土壌診断結果の見方と施肥改善、病害虫防除の徹底などの栽培管理の指導を行った。

今年の祝だいこんは、例年どおりの10月12日からは種が始まる予定で、約75万本の出荷が見込まれており、農業普及課では、巡回指導やは種後1か月、2か月の生育調査、栽培技術情報の提供を通じて、目標が達成できるよう支援を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【栽培研修会議の様子】